NPO法人 子どものいのちを守る会 https://empowering-children.tokyo/

Protect Children's Life

Empowering Children

11/ 2022
令和４年１１月号
2022 November

＜お詫びと訂正＞前号で日本は 33 カ国中 32 位と記しましたが、正しくは 38 カ国中 37 位でした。お詫びして訂正します。

前号の続きです。

UNICEF では自己内にある「精神満足度（以下、満足度と表記します）」と社会制度、法律、医療、治安、経済水準などの外的要因を総合したものを「幸福度」と定義しています。日本は他国に比べ、外的要因がかなり優秀であるにも関わらず、満足度が非常に低い。これは何故なのか？育学の講師や児童支援 NPO の理事などの知人と議論した上で「満足度」の低さに焦点を当てて私なりの考察を述べます。

別の調査（Varkey 財団、2018 年）では、教育水準、成績、勉強の時間、教師との関係性は満足度にほとんど関係がないと結論付けています。逆にほぼ全ての国で「<u>両親と毎日話す時間がある」「両親と一緒に日に一回は食事を摂る」と回答した子どもはそうでない子どもに比べ満足度が統計的有意に高い、</u>という結果があります。

今月申し上げたいことは下線部分にすべて集約されています。日本は週に 50 時間以上働く長時間労働者が非常に多い国です。即ち、家族に割くべき時間が労働に奪われてしまっている国である、という推論はできそうです。もう一つ良くない要素としては日本の核家族化にあると私は考えます。日本の世帯平均人数は 2.7 人です。両親が仕事に忙殺されれば話し相手がいない。他国は 1 世帯 4 人前後であり両親がいなくても祖父母や兄弟との会話時間が生まれる可能性があります。

日本より核家族化が進んでいるものの（2.5 人前後）、北西欧圏の子どもは概ね満足度が高く、労働時間が少ないことで家族に費やす時間が十分に取れているのではないかという推測はできます。満足度が低い国には英語と日韓両国が並んでいます。日本については「高校大学受験が苛烈過ぎる」ことが要因という指摘（教育評論家尾木直樹氏）、もありますが私としては Varkey 財団の調査結果である「成績は子供の満足度に影響しない」を支持したいと思います。

満足度上位		下位	
1	オランダ	32	カナダ
2	キプロス	33	米国
3	スペイン	34	マルタ
4	ルーマニア	35	韓国
5	デンマーク	36	オーストラリア
6	ポルトガル	37	リトアニア
7	フランス	38	日本
8	ギリシャ	39	ニュージーランド

更に UNICEF は「簡単に友達をつくることができますか」という設問と満足度の強い関連性を示唆しています。友達がいない子は悩みが解消しにくい、ということです。更に満足度といじめの密な関連性にも言及しています。いじめの正確な実態調査は難しいとされますが、日本では加害経験が 7 割、被害経験が 8 割くらいだとされます。いじめの問題に直面した場合、子どもたちは相談相手を求めるはずです。その第一候補は親もしくは年長の家族。次に友人。UNICEF、Varkey 財団どちらの調査からも教師や学校の質は満足度とほとんど関係が読み取れません。家族や友人の支えがあれば、子どもの満足度は概ね満たされるということです。

いじめで子どもが自殺をすると教育委員会や学校が槍玉に上げられ、親は被害者、という論調には問題が隠されていると考えます。いじめの最たる責任は親にあるのではないか。子どもと向き合う時間が足りないのではないか。少なくとも調査の統計上は学校や教育の責任は限定的です。財政破綻して福祉も治安も経済も失ったギリシャが満足度で 8 位だということを考えると、何でもかんでもお上のせいにしている姿勢は改めるべきものがあると思います。

NPO法人
子どものいのちを守る会
〒162-0805
東京都新宿区矢来町 123　矢来ビル 3F　Tel. 03-5227-1877
お問い合わせ
kdm.mamorukai@gmail.com